

あゆみ

J C H O
二本松病院

二本松市成田町1-553

TEL.0243-23-1231

FAX.0243-23-5086

<http://nihonmatsu.jcho.go.jp>

発行者: あゆみ編集委員会

新年度のご挨拶

JCHO二本松病院 院長 六角 裕一

JCHO(地域医療機能推進機構)二本松病院となってから5年目の春が来ました。今年は暖かいため桜の開花が早く、病院の前にある桜はもう満開になっています。

さて今年度の人事です。昨年度病院を離れていった方が多かったためか、例年にも増して多くの方が来てくれるようになりました。

まず、医師についてですが、久しぶりにあたらしい先生が着任してくれました。福島医大の乳腺外科から派遣された星 信大先生です。星先生の専門は乳腺外科、つまり乳癌や乳腺疾患の診断、治療なのですが、その他の外科の診療も立派にできる優秀な医師です。当院の大きな戦力になってくれることを期待しています。

今年国家試験に合格して就職した新人は、薬剤師、理学療法士、検査技師、そして看護師2名の計5名です。この方たちは病院を若返らせて明るくしてくれることと思っています。早くみんなと打ち解けて、仕事を覚えて患者様のためになれるようにしてください。

その他にも新しく病院に来てくれた薬剤師や看護師や介護士、事務職員が多数いますので皆様よろしく願いいたします。

さて、今年医療界で何があるかという、まず新専門医制度が開始されるということだろうと思います。今までは例えば日本内科学会や日本外科学会

といった組織が独自に認定医や専門医などを認めていたのですが、これからは日本専門医機構という組織が認定することになります。

日本専門医機構が認定する「専門医」とは、それぞれの臨床領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち、患者様から信頼される標準的な医療を提供できるとともに、先端的な医療を理解し情報を提供できる医師と定義されるということです。

研修領域としては内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、整形外科、脳神経外科、形成外科、救急科、麻酔科、放射線科、リハビリテーション科、病理、臨床検査、総合診療の19領域で、新しく医師臨床研修を修了した若い医師の多くはこれを目指すこととなります。そしてこの研修ができるのは、都市部の大病院になっています。

つまり、この制度が開始されると若い医師が都市部の大病院へ集中し、地方の中小病院に来る医師が激減することが予想されます。

このことひとつをとっても私たちを取り巻く環境は厳しいものがあります。しかしJCHO二本松病院はこの地域の方のために仕事をしています。困難な環境の中でも皆様の幸せのために努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



院内学会発表を終えて

平成30年3月8日(木)二本松病院院内学会が開催されました。

他職種の職員がそれぞれの専門知識や技法を、グラフや写真を取り入れた内容でパワーポイント使用しながら分かりやすく紹介し、様々な工夫や熱弁が多々見られました。質疑応答では、取り組みの詳細や今後の目標、研究に対する考察などがあり、内容の理解をより深める姿もありました。

私の意見ではありませんが、医療従事者は患者様の治療、看護、機能向上を行うことは職務です。また、患者様お1人お1人から多くのことを学ばせて頂いています。その学びを学会発表という形で恩返しすることはとても大切なことだと思います。

今後も、現状の業務遂行に満足することなく疑問や課題を明確にし、これらを解決するために院内学会という場を

継続していくことが大切と考えます。院内学会で受賞された方は11月に全国のJCHO病院学会で発表することになっています。さらに切磋琢磨し、業務を行い、患者様に寄り添った医療を提供していきたいと思えます。

主任理学療法士 赤岡 智行



認知症サポーター養成講座を開催しました



3月16日に、二本松病院職員を対象とした認知症サポーター養成講座を開催しました。



二本松市役所、高齢福祉課地域包括支援センターの佐藤義行先生を講師にお招きして、「認知症についての理解と対応方法について」の講義をいただきました。当日の勤務が終了した職員や、休日にもかかわらず講座のために出席した約100名の職員が、佐藤講師の、楽しい手遊びや冗談(訛りがよかった)を交えながらの講話を聴きながら、自分の仕事と照らし合わせた1時間15分はあっという間でした。講座終了後は認知症サポーターの証であるオレンジリングを取得しました。

これからは、今回の講義で学んだ認知症の人への対応心得3つの「ない」を基本姿勢に相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応できるようにしていきます。

今後、地域の方々に認知症について正しく理解していただき、認知症の人やその家族を見守り支援する「認知症サポーター」を多数養成できるようにして、認知症になっても安心して暮らせるまちを、市民の手

によってつくっていけるよう目指してまいります。

二本松第1地域包括支援センターは、地域の方々に認知症サポーター養成講座を開催し、多くの方にサポーターとなって頂けるよう努めていきたいと思えますのでお気軽にお問合せください。

認知症の人への対応心得 3つの「ない」

- 驚かせない
- 急がせない
- 自尊心を傷つけない

二本松第1地域包括支援センター 中塚 ゆかり



マンモグラフィ検診施設画像認定を更新しました

乳がんの早期発見に有効なマンモグラフィ検診は、高品質のマンモグラフィ装置で精度の高い読影を行うことが必須条件です。そのため画像評価・線量評価(機器のX線が一定に保たれる)などの精度管理が必要です。

当院ではマンモグラフィ検診施設画像認定を受け、3年に1度更新を行い皆さまに精度の高いマンモグラフィの検査を安心して受けて頂けるよう品質管理を行っております。今後も更に精度の高いマンモグラフィ検診の実現を目指して、日々研鑽して参りたいと思えます。

診療放射線技師 佐藤 祥子



マンモグラフィ検診施設画像認定証

独立行政法人 地域医療機能推進機構
二本松病院

貴施設は日本乳がん検診精度管理中央機構施設画像評価委員会での審査の結果、老健第65号の定める検診精度管理の線量・画質基準を満たすマンモグラフィ(乳房エックス線写真)検診施設として認定致します

認定期間
自 2018年 4月 1日
至 2021年 3月 31日

特定非営利活動法人
日本乳がん検診精度管理中央機構
理事長 遠藤 登喜



認知症について、初めてこんなに深く考えました。認知症の方と接するときは見て見ぬふりなんかせずに、今日教わったことが実践できたらいいな。



最新X線透視装置導入のお知らせ

この度、当院初となる42cm×42cm大視野フラットパネルディテクタを搭載したデジタルX線透視装置を導入しました。最新の透視装置を増台したことにより、より多くの検査が行え、更に、検査を受ける患者様やバリウム胃部健診の待ち時間の短縮につなげていけると思われます。

今回導入された装置(キヤノンメディカルシステムズ社製 ZEXIR A)の特長をご紹介します。

1. 被ばく線量の低減

進歩した画像処理技術を使用しているため、人体に照射するX線量を減少させても高画質な透視像や撮影像が得られます。また、フィルタの設定によりX線の線質を変化させ、さらに被ばくが低減できます。

2. 高画質な撮影像

最新のフラットパネルディテクタ(X線検出器)を使用し、画像処理を行うことにより、高画質、高解像度の画像が得られるため、より正確な診断が可能となります。

3. 42cm×42cmの大視野

腹部全体などの広い範囲が視野に収まるため、腸や尿路の検査等に適しています。

4. 動画の撮影

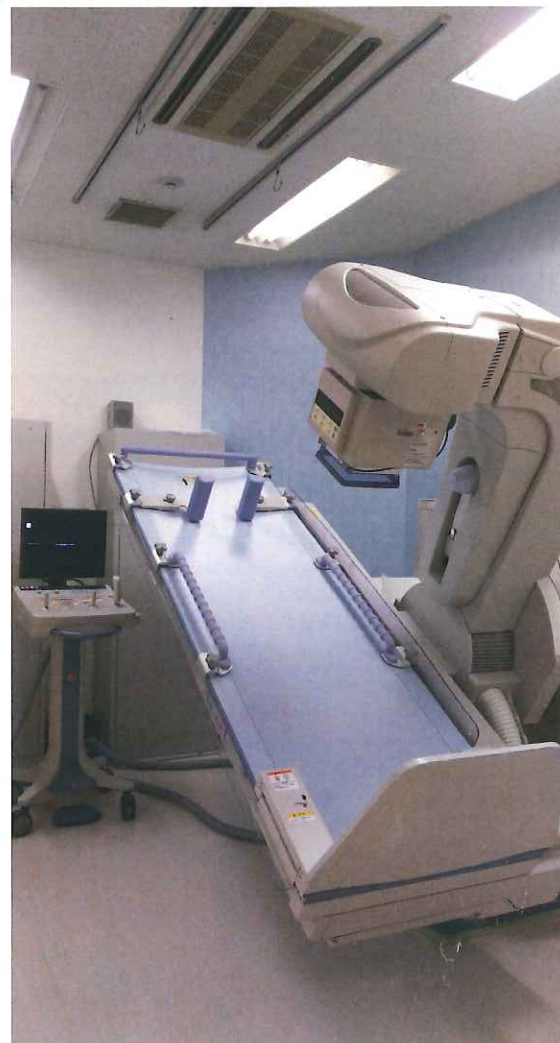
透視画像などの動画が撮影できるため、食事を飲み込む機能を診断する嚥下造影などの検査が正確に行えます。

5. 検査時に動きやすい撮影台

人間工学を活かした撮影台になっており、胃部撮影での体位変換がしやすくなっています。

上記の特長により、現在は胃部健診に使用しております。装置は、画像診断技術の進歩により、早期がんなど見えにくかった病気も見えやすくなってきています。われわれ診療放射線技師一同も病気などの異常画像を見て、診断しやすい映像が提供できる様、また、患者様や健診を受けられる方々の気持ちも見える様に努力し、更なる検査精度向上を目指し自己研鑽を行って参りますので、今後ともよろしくお願ひします。

診療放射線技師照射主任 中村 好



編集
後記

新年度と同時期に、桜の花が満開となり心が躍ります。当院でも遠くから異動で来られた方や、新入職員を迎え楽しくなりました。一日でも早く顔と名前を覚えていただき地域の皆様を知っていただきたいものです。健康に気をつけながらどうぞよろしくお願ひします。

M・Y記